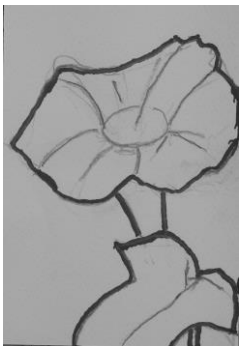
いのち・未来 うべ通信 １６号



私たちは原発のない安全な未来を

子どもたちに残すことを願って活動しています

〒755-0029 山口県宇部市新天町1丁目 2-36「青空内」| TEL 080-6331-0960(安藤携帯) | http://blog.jp/nonukes 2013

正念場を迎える上関原発建設反対闘争！

福島原発事故後、世界ではドイツ、デンマークをはじめ台湾、韓国など脱原発に舵を切り、他の国々も原発に依存しない社会を目指して努力がなされています。しかし、事故を起こした日本で安倍政権は原発を推進しています。事故を反省することなく原子力規制委員会を隠れみのにして３原発５基の再稼働を強行し、さらに４０年をこえる原発の２０年稼働延長を認めています。“福島の二の舞は許さない”との大多数の国民の願いを無視して再稼働を進め原子力政策の総仕上げとして原発の新規建設に踏み出し、その突破口として上関原発建設を狙っています。安倍政権の意を受け、県内の上関原発推います。

昨年８月、村岡県知事は上関原発建設用地公有水面埋め立て許可、１０月県議会では自・公両党による「上関原発促進決議」の強行採決、本年６月、県漁協は祝島漁協・漁業補償問題に介入、７月、中国電力は田ノ浦でのボーリング調査実施など進めています。安倍政権の進める原子力政策のもとでの上関原発建設は、原発に依存しない社会づくりを願う圧倒的多数の人々の民意と真っ向から対立、全国的な脱原発運動の焦点となります。

「いのち・未来 うべ」の果たすべき役割

会は市民の脱原発の思いを受けとめ 2012 年９月に発足、① 原発に依存しない社会づくり② 放射能汚染から命を守る、との基本理念を掲げて市民とともに歩んできました。上関町・祝島の人々の「海は売らない」との３５年の闘いは、今日まで瀬戸内の美しい自然を守り、幾百万の人々の命と財産を守っています。

「福島のようになったら取り返しがつかない。子や孫のためにも上関原発に反対しますよ」との市民の声は福島の人々と共通のものです。私たちがこの会の理念を実現するためには、市民の声にとことん依拠してこそ展望を開くことができます。

「いのち・未来 うべ」の役割は上関原発建設を巡る動きの急展開の中で一層強く求められています。

～もくじ～

☆ 正念場を迎える上関原発建設反対闘争 …1
☆ 急展開する上関原発を巡る情勢 …2
☆ 中国電力本社への抗議 …2
☆ 県知事に申し入れ …2
☆ 県漁協幹部の裏切り …2
☆ 会員との交流 …3
☆ 宮本議員原発問題追及 …4
☆ 金曜ウォーク 250 回 …4
☆ シルクロード巡礼団 …4
☆ 投稿 脱原発社会を …5
☆ 投稿 避難移住七年目の思い …6
☆ 新潟からのたより …6
☆ 映画「日本と再生」 …7
☆ 朗読劇「線量計が鳴る」公演 …8
☆ 小泉純一郎講演会 …8

急展開する上関原発を巡る情勢

5月以降、上関原発を巡る動きはにわかにあわただしくなってきた。中国電力は３．１１福島事故以降、それ以前進めてきた上関原発本体の建設はいったん中断し、時機をうかがう態勢で進めてきた。その間も引き続き地域住民への懐柔工作と原発周辺設備(道路拡幅、トンネル工事等)拡充があった。中国電力は５月になって突然、建設地内のボーリング調査(位置は明らかにしていないが計６本)の実施を表明し、６月３０日着工に入った。

これらの動きにあわせて中央省庁では経産省が、２０１４年の新エネルギー計画に基づく原発再稼働推進に加えて今年度中の原発新増設と建て替えの方針を打ち出すことを明らかにした。最近の山口県政、中国電力、県漁協、地元原発推進派の活発な動きはこれに呼応した動きである。

中国電力本社へ、ボーリング調査即時中止を申し入れ　山口・広島の7市民団体

６月７日、１４時から中国電力本社において５月１７日に発表したボーリング調査についてその中止を求める申し入れを行った。この申し入れは、山口県と広島県で反原発運動を進めている７市民団体(原発いらん山口ネットワーク、上関原発建設計画に反対する２市４町議会議員連盟、脱原発平生町民の会、自然エネルギー推進ネット・光、いのち・未来 うべ、上関原発止めよう広島ネットワーク、原発はごめんだヒロシマ市民の会) ７市民団体１６名で行われた。

ボーリング調査即時中止の申し入れについて中国電力は、このボーリング調査の目的は東日本大震災後に設立した原子力規制委員会の基準を考慮した調査であることを明らかにし、新設のＧＯサインに即応するためのものであると公然と答弁した。また、上関現地で進んでいる道路整備についても原発建設に必要な建設資材搬入のためのものだとはっきり述べた。今回の中国電力の答弁の特徴は従来のようにオブラートに包んだようなものではなく、単刀直入そのものであった。上関原発反対の闘いは重要局面を迎えている。

上関原発建設計画予定地の公有水面埋立免許延長許可の撤回を求めて県知事に申し入れ

上関原発を建てさせない山口県民連絡会は５月１２日，去る３月２５日開催された県民大集会において採択された集会宣言に基づき「公有水面埋立免許延長許可を撤回し、認可申請を不許可とするよう、村岡県知事に申し入れを行った。

県漁協幹部は誰に奉仕しているのか！

上関原発をめぐる情勢が急展開するなかで県漁協幹部の祝島の漁協、漁民に敵対する体質があらわになっています。上関原発推進のために県下の漁協に原発受入を指導し、瀬戸内海を金で売り渡

す漁業補償金を受け取り、あまつさえ、目の前３．８キロが計画地で 35 年に渡って原発反対を貫いている祝島漁協（現、祝島支店）に対してさまざまな分断策を弄して無理やり補償金を受け取らせようとしています。本店役員は、まるで中国電力の代理人、原発推進の旗振り役です。

かつて山口県・日本海側の漁協、漁民は、田万川町（現、萩市）萩市三見、豊北町（現、下関市）の原発計画をつぎつぎ中止させてきました。県漁協はこのたたかいのなかで大きな役割を果たしてきた経過があります。この漁民の声、漁協の心をどこへ捨ててしまったのでしょうか。

そもそも漁協本来の任務は漁民の生活の糧である海と漁場をまもりぬき漁民の生活の安全を保障するために粉骨砕身働くこと以外にないと思います。

折しも、７月１５日午前長崎県の新松浦漁協は、漁船など６６隻に２２０人が乗り込み玄海原発前で再稼働反対の海上デモを行いました。報道によれば、この海上デモに合わせて志水正司組合長は陸路で玄海原発に向かい、九電に抗議文を突き付けています。

県庁前の抗議に駆けつけた祝島島民

県下の漁民の願いは、漁民の利益を代表する漁協に立ち返ることを強く求めています。

会員との交流会 反原発の思い熱く語る

去る６月１８日、多世代ふれあいセンターにおいて「いのち・未来 うべ」会員の交流会が行われました。この交流会は、昨年の第５回総会で確認された会員間の交流活性化の方針に沿って計画されたものです。 交流会には、第４回県民大集会後に新しく会員になられた方々も含めて２０人近く参加されました。自己紹介をあわせて原発に対する深い思いが熱く語られました。発言では、アメリカ、ソ連、日本で起きた巨大な原発事故によって「安全神話」や「原発は安い」という大嘘は完全に崩壊したことで原発を選択する余地はない。チェルノブイリ事故のときから反原発の運動にかかわってきたある会員からは、その長い運動の中で得た貴重な資料や書籍があるのでこれからの活動に役立てて欲しい(５Ｐ参照)等々の発言があった。交流会は会員の思いが互いに深められ、今後の上関原発建設反対に地に足をつけた運動を進めていくことを確認しあう場となりました。

中国電力曰く「生活道路ではなく、もっぱら原発資材を搬入するための道路である」

宇部市議会で宮本議員、原発問題を追及

６月１６日午後１時から宇部市議会での一般質問に立った宮本議員（社民）は原発問題を取り上げ注目された。宇部市議会では、原発問題で質疑が交わされたのは、２０１１年の東日本大震災による福島原発事故の時以来初めてのことだからである。

宮本議員は、自分の住む海辺の地域から天気が良い日は祝島が見える。上関原発から遮るものはなく、事故が起こるとただちに宇部も影響をもろに受ける。伊方原発でも同じだ。宇部市では事故の場合の危機管理体制はどう考えているのか。原発建設についてどう思っているのか。甲状腺被曝を防ぐための安定ヨウ素剤を備蓄する予定はあるのか。等を質問した。これらの質問はいずれも久保田市政の立場を判断する上で良い質問であった。久保田市長の答弁は、「国のエネルギー政策なのでコメントする立場にない」「宇部市が３０キロ圏内ではないことで県や当該市町村が考えればよいこと」、同じ理由で安定ヨウ素剤の備蓄も考えていない。とまるで他人事のような答弁に終始した。６年前の福島事故直後の市政と比べて明らかに政治的に後退していることがよく分かった、というのが傍聴席の人々の感想であった。

金曜ウオーク250回達成！

２０１７年5月１９日「いのち・未来 うべ」による金曜ウォークは２０１２年８月１０日の第１回以来、雨の日も、風の日も元旦、祝祭日も一度も中断することなく歩き続けて２５０回を達成しました。「継続は力」というが、金曜ウォークはいまでは手を振ったり、声をかけてくれる市民も出てくるなど、市民の中に静かに定着しつつあります。

今後も活動形態にも工夫し、更なる飛躍が課題になっています。

生命・脱核(脱原発)「シルクロード巡礼団」宇部駅前で歓迎・交流

去る6月14日夕方5時過ぎに生命・脱核（脱原発）シルクロード巡礼団が宇部駅に到着。団長の李元栄さん（大学教授）は自己紹介のあと「広島から2年がかりでバチカンまで歩いていきます。宇部市民の方々と会うことができてとてもうれしいです。今日一緒に歩いた方々にも感謝します。これからもどうぞよろしくお願いします」と日焼けした笑顔で挨拶されました。

巡礼団は韓国のソウルからローマのバチカンまで11000km（26ヶ国）を2年かけて歩いていかれます。

主な主張は次のようになっています。「何よりも私たちは核エネルギーの現実に注目しています。全世界で稼働中の450基以上の核発電所と核兵器の拡散は地球上のすべての生命共同体の終末を促しています。核兵器はこの時代の全滅を招き、核発電所はその廃棄物と共に未来の世代まで多大な災難に陥れることでしょう。スリーマイル島事故（アメリカ、1979年）、チェルノブイリ事故（ソ連、1986年）、そして現在進行中の福島の事故（日本、2011年）は核発電が安くて安全なエネルギーを提供するのではなく、もはやこれ以上耐えられない地球のわざわいであることを明らかに証明しました。」

「いのち・未来 うべ」は上関原発反対の横断幕とのぼり旗をもって参加し、激励のカンパをさせていただきました。

脱原発社会を

御手洗文良

あの３．１１から６年以上が経ちました。２０１１年３月１１日の東北地方太平洋沖地震と、それによって起きた東電福島第一原発事故は、私たちにとってあまりにも強い衝撃でした。１９７９年のスリーマイル島原発事故、１９８６年のチェルノブイリ原発事故に続いて、世界で３番目の原発事故が、日本で起きてしまったのです。

この過酷事故が起きた結果、これまでの原発推進論の主要な論拠が大きく崩れました。

１つは、原発は絶対安全だと喧伝されてきたことが、とんでもない嘘だったということです。政治家、官僚、業界、学会、マスメディアが一体となって、安全神話を流しつづけ、国民を欺いてきましたが、この神話は完全に破綻しました。

この事故が起きるまでは、私たちは、日本の技術は高いレベルだから、安全性をきちんと確認して原発を使うのはいいだろうと思い込まされていました。しかし、３．１１の事故は、最悪の場合、国土の３分の１が放射能で汚染され、５，０００万の人々が逃げなければならない危機が迫っていたことを教えてくれました。それでも原発を使うのかどうか。原発を使わないですむ社会をつくるべきである、これが当然の帰結です。

２つめは、原発はどの発電方式よりも発電コストが安くて経済的である、として推進されてきましたが、実は原発の発電コストは高いことが明らかになったことです。

政府は各電源別の発電コスト（１キロワット時発電するのに要するコスト）を発表し、原発は最も安価で経済的だとしてきました。この発電コストは、発電事業に直接要するコストすなわち減価償却費・燃料費・保守費を基に計算された電力会社にとってのコストです。しかし、実際にはこれらに加えて技術開発費・立地対策費の政策コストがかかっています。技術開発コストとは、軽水炉、高速増殖炉、核燃料サイクル技術などの開発コストであり、立地対策費は、原発建設受け入れ地域の市町村に対する交付金です。政策コストは、国家財政を通じて国民が負担しています。エネルギー政策について長年研究してきた大島堅一教授は、国民経済全体の視点から見れば、電力会社という私企業が支払っている私的コストと、社会が全体として支払っている政策コストをトータルに計算する必要があるとして、実際の発電コストを計算した結果、原発は他のどの電源よりも高コストであることを明らかにしました。経済性の面からみても、原発の不合理性は明白と言わなければなりません。

３つめは、原発は電力の安定供給のために必要で、原発がなければ電力不足となり、産業経済と国民生活を混乱に陥れると脅されてきました。しかし、日本中の全原発が運転をストップしていた期間も停電はなく、電力の供給不足は起らないことが実証されました。

今や、安全性の面からも、発電コストの経済性の面からも、そして電力の供給能力の面からも、原発を選ぶという選択肢はありえないということです。

原発は再稼働してはならないのであり、ましてや原発の新規建設など論外と言わなければなりません。

会員の田村さんからお預かりしている貴重な資料をご希望の会員に貸し出します。

- ▼ ＣＤ 平井孝治「チェルノブイリ事故と日本の原発」
- ▼ ＣＤ「甘蔗珠恵子さんを囲んで」
- ▼ ＤＶＤ 朝まで生テレビ「原発徹底討論 第２弾」
- ▼ 書籍 「原子力読本 高校生の平和学習のために」
- ▼ 書籍 「チェルノブイリ クライシス」
- ▼ 書籍 「四番目の恐怖」
- ▼ 書籍 「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」

避難移住七年目の思い

２０１１年３月１１日、原子力緊急事態宣言が出されました。２００km 離れていても此処は危険かもしれないと、その翌日に家族と共に関東から山口県に避難移住しました。そのことで私たち家族はそれまでのささやかな日常を失い、心の痛みや経済的負担を負いました。仕事、新築の一戸建て、地域の交流を捨てるしかありませんでした。

あれから６年たち、東芝や(仏)アレバ社等の原子力産業崩壊のきざしもあるので、上関原発の完成はもはやないと思いたいし、建設は中止していただきたいという気持ちでいます。それなのに日本中のどこを見渡しても、原発推進反対者の数はいまだに少なく、声も小さく、このままでは上関原発も完成してしまうのではないかと不安にになります。

なぜ反対者が少ないのでしょうか。事故から七年目にして小児甲状腺癌が　１８５人と異常多発しています。甲状腺癌には転移の有る者や予後が悪いものも有るので深刻な事態です。また、賠償、除染、廃炉にかかる国民負担は２１兆円以上にもふくらみ、まさに危機的状況です。原発の存在自体が私たちの生命、財産、未来を脅かすものなのに、そうでもないかのような意識が共有されているように見えて残念です。テレビと新聞で情報を得る人がほとんどで、わざわざインターネットを使って汚染の実態や専門家の情報を得ている人は少数です。放射能汚染が深刻であっても、テレビや新聞で実害を風評被害と揶揄したり過小評価したら大多数は無関心になってしまいます。これでよいのでしょうか。被害はもっと深刻だという事が伝われば危機感を共有出来ます。原発推進反対者が増えて多数になる事で民意とするのでなければ建設阻止は困難になります。

世界中で、特に日本で巨大地震が起きる予測があります。すでにある原発のどれかが、いつまた過酷事故を起こすかもしれません。そうなる前に何とかしたいものです。

上関原発の建設を阻止して、今ある原発も廃炉にしなければ福島の悲劇は繰り返されます。移住してきた山口県には美しい海、山があり、田畑には人々の暮らしがありました。放射能汚染が拡大しないことを望んでいます。

２０１７年　４月　Ｍ・Ｍ

「さようなら柏崎刈羽原発プロジェクト」との連絡が取れました

新潟知事選で原発再稼働反対を掲げる米山氏当選を支えた一つのグループ「さようなら柏崎刈羽原発プロジェクト」との連絡が取れました。この組織の結成は２００７年９月です。その運動の目的は、同年７月１６日中越沖地震により傷だらけになった柏崎刈羽原発を再稼働させようとする危険な企みに反対して、県内の様々な市民団体、個人が集まって結成されたものです。「さようならニュース」は６月６日７２号を数え、県民の中に根付いています。今回手紙と一緒にマンガ・パンフレット５００部も送っていただきました。上関原発反対運動に役立てて下さいとのことです。マンガ・パンフレットはすでに県下の人々に配布、パンフ代としてカンパをいただき送金しました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

御連絡

資料の御送付ありがとうございました。

上関原発も長い斗いですね。私の故郷に近い芦浜原発３６年に及ぶ斗いに勝利しました。頑張って下さい。

昨年つくったマンガ・パンフレットが好評でしたので残部５００部お送りします。一昨年、昨年と４回風船上げをし、県内３０自治体に郵送しました。２部入れておきました。

今年度は県内３０自治体すべてを訪問して避難

計画について申し入れをしようと思っています。…　が、まず３０Km 圏内がまだ終わっていません。

安倍さんのおひざ元で大変さは想像以上でしょう！いっしょに頑張っていきたいと思います。ではまた。

小木曽茂子（さようなら柏崎刈羽原発プロジェクト事務局）

下関市で映画「日本と再生」を上映

下関市リサイクルプラザにおいて映画「日本と再生」が上映された。この映画は反原発弁護士・河合弘之監督による第２弾「日本と原発　４年後」に続く、第３弾の作品である。「日本と原発４年後」は原発に群がる政官財の利権構造を徹底的に暴き出し、原発建設反対の立場を鮮明に示したものだった。第３弾の「日本と再生」は原発に反対して未来のエネルギー政策の方向を自然エネルギーへと明確に舵を切ることが唯一の正しい方向であることを明らかにしている。映画は自然エネルギー先進国ドイツ、デンマーク、原発推進国と思われていた中国、そしてアメリカ国防総省へも訪れ、いずれの国でも脱原発、自然エネルギーへと方向を転換しつつある現実を明らかにしている。これらの世界の動向に反してあくまで原発復活を目論む日本政府の愚かさも暴き出している。

上映後の河合弘之さんはトークで要旨次のように述べた。 脱原発を一生懸命やっていたら替わりのエネルギーをどうするのかといわれた。そのためには自然エネルギーしかない。これを調べて映画にしようということになった。この映画を作るなかで 世界の現状に驚いた。 自然エネルギーの映画を作るには飯田哲也さん(25年来の友人)しかない。一緒につくろうということになって飯田さんの道案内で世界を訪ねた。飯田さんは世界、日本を回って自然エネルギーの拡大をやっている人。一緒に歩いて一番驚いたのは熱気があってブームになっている、本当に実力を備えて来ていることだった。

原発の設備容量は１GW―１原発として世界に４００基―４００GW以上になるが、風力、太陽光あわせて８００GWをこえる。自然エネルギーに占める設備投資は全エネルギーの７５％を投資している、残りの２０％が火力、５％が原子力だ。各国の人は楽しそうにやっている。

金融中心、産業中心にいる人が自然エネルギーに取り組んでいるのに驚く。金儲けにもなる。住民運動から始まって収益も上がっている。

一番驚いたのは中国、アメリカの軍隊。中国は日本の３０倍。いまはあれから１年半経て１００倍になった。何故そのように進むのか。圧倒的に安い、原材料は只だ。２５兆円石油代を払って電気をつくるのではなく太陽の熱と光で電気をつくる。工期も比較にならないほど早い。太陽光は３ヶ月、風力で１～２年、原発は早くて１０年。大間原発は３０年もたってる。中国は福島のような事故は絶対におこさないようにスローダウンして風力と太陽光をすすめ経済人や政治家が反応を示している。

アメリカの軍隊で自然エネルギーが取り入れられている。軍隊は人殺し。世界の大きな戦争はオイル資源の取り合いが原因。世界中が自然エネルギーで自立すれば戦争の大きな原因はなくなる。日本でもう一回事故がおこればアウト。アウトになる前に自然エネルギーの推進運動を進めたい。

朗読劇「線量計が鳴る」

テレビ放映「木枯し紋次郎」で「あっしには、かかわりねえこって」がきめぜりふだった俳優・中村敦夫氏が、この５月から朗読劇「線量計が鳴る」をひっさげて全国公演に乗り出した。彼の決意が中途半端でないことは、この台本を完成させるため、情報収集や取材、脚本の推敲に要した時間が３年以上だったことを見ても分かる。中村氏は、１９９８年より参議院議員として１期つとめた。そのころから環境問題にかかわってきたが、２０１１年の福島原発事故以降は反原発の立場を鮮明にしてきている。

朗読劇「線量計が鳴る」は一幕四場の出演者一人による朗読劇である。一場は、原発の町で生まれ育ち、原発で働き、そして原発事故で全てを失った主人公の個人史、二場は、原発が作られ、日本に入ってきた事情。原発の仕組み。福島事故の実態。三場は、チェルノブイリ視察体験。被曝による医学上の諸問題と現実。放射線医学界の謎、四場は、原発を動かしている本当の理由。利権に群がる原子力村の相関図。

２時間に及ぶこの反原発の作品は、これから反原発運動に加わる人々にとって身につけるべき知識をすべてにわたって解き明かしており、教本とも言うべき力作である。また、芸術家特有の鋭い感性から原発の利権に群がる原発マフィアの醜悪さを徹底的に暴き出し、心地よい快感を与えくれる作品でもある。

小泉純一郎氏講演会

演題「日本の歩むべき道」

と き　２０１７年１１月６日(:月)
開 場　１３:００ 講演１４：００～１５：３０
ところ　周南市文化会館大ホール
入場料　未定
主　催　「日本の歩むべき道」を聞く会

朗読劇「線量計が鳴る」宇部公演要項

と　き　2017 年 9 月 17 日(日) 午後 2 時開演
ところ　宇部市多世代ふれあいセンター
　　２Ｆホール
入場料　大人　前売り 2000 円(当日 2500 円)
　　学生　(中・高・大)
　　前売り 1000 円(当日 1500 円)
協　賛　宇部音楽鑑賞協会
　　宇部子ども★２１
　　ドリームシアター・うべ

宇部公演は７月１８日、第一回実行委員会を開催し、おおまかな予算、宣伝、日程等の骨格を決めました。

実行委員会代表の永谷政一さんは、原発反対の勢力は国民の大多数で多数派だ、明るく元気に行きましょうと呼びかけました。

編集後記

１６号は安倍政権、村岡県知事、中国電力、県漁協等々、上関原発を巡ってあわただしい動きを見せるなかで、それらをまとめることに焦点をあてて編集しました。上関はもう出来ないのでは、という多くの人々の願いと真逆に、上関原発建設反対の闘いは、正念場を迎えています。編集部の思いが読者の皆さんに届くよう、通信がその一助になることを願っています。